

現場に吹く風

【研修編】

▶ ブータン

徳島から世界各国へ飛び立ち国際協力の現場で奮闘している人たちがいる。JICAでは現地への技術協力を行うにあたり、先方政府関係者を日本に招聘し日本の知見・技術に触れてもらう研修を行っている。今回はその研修内容をレポートする。



右／平地地区で取り組むゴミ回収ステーションにて、22区分をわかりやすく伝える看板づくりの工夫など説明を聞く。左上／「平地日の地」常会にて、役場からの連絡事項や常会内での情報共有が和やかに行われる様子を視察。左下／9月「とくしまマルシェ」にて、生産者が価値ある商品・農産物を消費者に直接届け、新たな流通を見出している機会を学ぶ。



佐那河内小学校にて、児童と交流しながら「栄養教育」や地元産野菜を使った学校給食など、学校と地域との連携について学ぶ。

佐那河内役場にて、村の相互扶助の精神、住民組織と役場との協働関係、さらに地域で発展させてきたゴミ回収方法について学ぶ。



地方行政と住民組織の連携を学ぶため ブータンから徳島山間部へ視察

去る9月、この協力の一環でブータンから5名の行政官が徳島を訪れました。約2週間の滞在で、那賀町木頭、上勝町、佐那河内村を訪問し、地方行政と住民組織の連携について、治水や地場産業の活性化・農業振興・ゴミ回収の現場を視察しながら、ブータンに適用できる策について考えを深めました。2年前には、プロジェクト関係の県知事4名が来県しており、その成果として佐那河

「幸せの国」として名を馳せるブータン。「国民総幸福量」を初めて提唱し、経済成長では図ることのできない自然環境や伝統文化、家族や友人、地域のつながりとの調和がとれたものであるべきという考え方の下、国づくりが進められています。近年急速な近代化・民主化が進む中、行政と住民が一体となった地域づくりが求められています。JICAは、ブータン政府からの要請に基づき、住民の声を反映し地方行政と一体となった地域づくりを支援するプロジェクト（※）を2015年より実施しています。

内村の「常会」を真似たブータン風「自治会」が生まれ、地域清掃などの自主活動も始まっています。「ブータンはほとんどが農村地域。住民が対話し共に地域づくりを行うことが、持続的な『幸せの国』にも繋がるのでは」と清家専門員。徳島で得た知見も糧に、残り1年のプロジェクト活動に取り組みます。
（文）／JICA徳島デスク長田有加里

※ JICA 技術協力プロジェクト名：「住民関与を旨とした地方行政支援プロジェクト」

JICA技術協力プロジェクト・チーフアドバイザー：清家政信

徳島市出身。青年海外協力隊員としてガーナで活動後、バブアニューギニア、マラウイ等へJICA長期専門家として従事、1997年よりJICA国際協力専門員を務め、今年4月ブータンに赴任。



◀ 佐那河内役場にて。写真左が清家専門員。視察に協力いただいた、佐那河内村役場の太尾さん（右から4番目）、安富さん（右から5番目）、地域から志摩さん（右から3番目）、瀧倉さん（中央女性右）、石本さん（中央女性左）。



JICA 研修事業：国づくりの担い手となる開発途上国の人材を「研修員」として受け入れ、技術や知識の習得、制度構築等をバックアップする事業。毎年およそ150か国から1万人を超える行政官や技術者などを、各国政府からの要請に基づき研修員として受け入れています。
問い合わせ先：JICA徳島デスク（電話：088-656-3303）、またはJICAホームページ<https://www.jica.go.jp/>